

今年度も万全な感染対策のもと、 敬老会が開催されました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



9月19日の敬老の日、健育会グループ恒例イベントの「敬老会」が開催されました。今年も新型コロナウイルス感染症予防対策下での開催となったため、ご家族や地域の皆さん、ボランティアなど外部からの参加を制限させていただきました。こうした制約の中でも、患者さんやご利用者さんに楽しい時間を過ごしていただくため、各病院・施設では例年以上に趣向を凝らして、職員手作りの企画を展開しました。

敬老会は、普段なかなかお見舞いに来ることができないご家族にもお越しいただき、患者さんとの楽しいひとときを過ごしていただきたいとの思いから開催しています。しかし、26回目となる今年も新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながらご家族の皆さんを招待することができませんでした。また、日頃から面会制限を行っているため、患者さんやご利用者さんにお会いいただく機会が少ない状況が続いています。敬老会に限らず、コロナ禍においてご家族の皆さんが安心でき、患者さんやご利用者さんが満足できる入院生活を送っていただくにはどうすれば良いかということを考え、病院・施設の運営に取り組んでまいります。

敬老会大賞

病院部門

熱川温泉病院

【選定理由】

リハビリ職員、看護職員、ミャンマー人技能実習生、幹部職員それぞれで催し物を行うなど、病院職員による催し物がたいへん多く、コロナ禍でも患者さんにとって非常に親近感の湧く手作りの温かい敬老祭になっていました。



施設部門

喬成会介護事業部

【選定理由】

コロナ禍で縮小しているとはいえ、事務や薬剤師なども法被を着て病棟に上がり、各病棟職員全員で盛大に盛り上げていました。また、一つ一つが丁寧で、患者さんに温かな雰囲気伝わっていました。



竹川病院



今年も新型コロナウイルス感染症予防の為、例年恒例の1階エントランスでの賀寿表彰式典や職員によるソーラン節、外部のゲストによるイベント、1階や各階病棟で行っている患者さんのご家族をお招きしたイベントは自粛しました。

年に一度の大々的なイベントが若干の縮小開催でしたが、実施可能なイベントを事前に患者さんにご家族に案内。新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか患者さんがご家族とお会いする機会が減っている中、ご家族やお身内の方の写真を事前に取り寄せ、イベントに併せて一緒に撮影しご家族を身近に感じていただき、また、参加型の出店（ポッチャ、射的、釣り等）をご用意させていただいて楽しんでいただきながら、職員特製の飾り付けを施した病棟で、患者さんの記念撮影も実施。その写真をご家族へお送りするという企画でした。

今年の賀寿表彰は17名の患者さんが表彰でした。田中院長、梶田副院長が各階で対象となった患者さんの所へ直接お伺いして表彰し、記念品を贈呈。昼食は栄養科が腕を振るった特製お弁当をご用意し、イベントと合わせて穏やかにほっこり笑顔あふれる病院祭でした。



熱川温泉病院



今年も昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、ご家族の招待は見送りました。入院患者さんにはTV中継で、ご家族にはYouTubeとInstagramでのライブ配信を通じてイベントの様態をご覧いただきました。

病棟での昼食会は『敬老会・お祝い弁当』を用意しました。メニューは「赤飯・ふのりの味噌汁・金目鯛の漁師煮・海鮮天ぷら・胡瓜のささみ和え・漬物二種・フルーツ～炭酸ジュレ添え～」。栄養科職員が丹精込めて作ったお料理を皆さんおいしそうに召し上がっていました。また、イベントでは恒例の「保育所児童 おんせんたまご in アメリカンオールディーズ」のあと、104歳を筆頭に90歳以上24名の方を対象にご長寿表彰式を行いました。さらに「うたのおねえさん 高瀬真由 ミニコンサート」、職員による出し物 ①リハ職員による「明日があるさ」、②看護職員による「妖怪体操第一」、③ミャンマー技能実習生の踊り、④管理職出演 「寸劇 水戸黄門」の披露と続き、例年に比べて盛りだくさんの内容で病室や談話室に設置したテレビで楽しんで頂きました。



今年の敬老会は、新型コロナウイルス第7波の感染拡大の影響を踏まえ、参加人数を絞り、ご家族の来院・受入れについては取り止めとしましたが、敬老会運営職員が中心となり、患者さんに喜んでいただける企画・運営を心掛けました。

式典は、最高齢103歳から喜寿77歳までの計13名の患者さんが対象でしたが、当日会場に参加できた患者さんは8名となりました。ご長寿の患者さんのご紹介に合わせて、手作りの記章と記念品を贈呈し、VTRにて患者さん一人一人に院内保育園の園児達からの、お祝いのメッセージを届けました。また、ご家族からの祝辞とお便りを職員が代読しご紹介させていただきました。

催し物としては、院内保育園の園児達からのお祝いの合唱をVTRにてお届けしたところ、園児達の元気な姿を見て患者さんの顔も自然とほころびました。つぎに外部ボランティアの方々による「沖縄エイサー踊り」の演舞を披露させていただきました。踊り手の皆さんの華やかな舞と熱気と三線の音に魅了され、患者さんと職員と一緒に、大きな拍手を送りました。

また、今年の食事は患者さんへ特製のお祝膳として、生ちらし寿司、煮しめ、茶碗蒸し、フルーツ盛り合わせ、蟹つみれと三つ葉の清汁を、当院栄養科より心を込めて提供させていただき、大変お喜びいただけたものと思います。

なお、今年度は式典会場より各病棟へテレビ中継を行いましたので、入院患者さん楽しんで、ご覧いただけたものと感じております。また、会場における患者さんの記念撮影については、感染予防の観点から、今年もマスク着用のままとさせていただきました。



10時から院長・Ma-D・各階師長がそれぞれの病床をまわり、記念品を贈呈。あらかじめご家族にお願いし準備していたメッセージカードを師長が読み上げました。それぞれ心のこもったメッセージに涙する患者さんもおられました。また、ご長寿の患者さん（101歳・男性、100歳・女性、98歳・女性）には院長から特別な記念品を贈呈し、記念撮影をおこないました。また、事務部門・リハビリ部門はご家族からのメッセージをお聞きになっている患者さんの反応を映像におさめ、30秒程度の動画にまとめファミリーファーストのメッセージに添付して送信しました。

その後、リハビリ職員による福引きイベントを実施。芋掘りに見立てた大きなボックスから延びている束になった紐から一本を患者さんに選んで引っ張っていただき、引き当てたさつま芋・カボチャ・金のリンゴのそれぞれ対象となる景品（金のリンゴ：ひざ掛けor

置時計、カボチャ：ブラシorコップorエコバック、さつま芋：ティッシュorマスクorタオル）をご自身で選択していただきプレゼントするというイベントを実施しました。

昼食は敬老会限定のスペシャルメニューを用意しました（お赤飯、澄まし汁には紅白の素麺、茶わん蒸し、天ぷら、鯛やまぐろの刺身、炊き合わせ）。食後には巨峰・メロンのフルーツの盛り合わせを味わっていただきました。

前週にクラスターが終息したということで、例年のようにホールに集合してのイベントは準備できませんでしたが、1週間という短い期間でイベントやプレゼントの企画、ご家族にお願いして手書きのメッセージを集めるなど患者さんに喜んでいただくために各部署知恵を出し合いました。



新型コロナウイルス感染者の経過期間終了直後での開催もあり、今年もご家族や地域のボランティアさん等の参加をご遠慮いただき、生駒副理事長・北海道大学名誉教授の開会挨拶から始まり、職員中心で開催しました。

3階回復期リハビリテーション病棟に当院最高齢の102歳患者さんへの表彰、各階での長寿の表彰、発熱された患者さんには病室へ職員がお伺いし表彰させていただきました。昼食は、根上料理長によるメニュー紹介、食材の素材を活かし工夫した内容や、鮭・いくらを盛り込んだ、海鮮石狩花川弁当に望来（もうらい）豚の産地でもある石狩市特産豚にアレンジした角煮も豚肉本来の味が楽しめるよう薄味に仕上げ、職員有志による「はなウタリ」バンドのランチタイムコンサートと一緒に提供させていただきました。美味しそうに召し上がる患者さんの顔やランチコンサートを聞き惚れている様子が拝見できました。

午後は、各階の患者さんが階またぎをしないように各階のフロアで感染対策の工夫をして同じイベント内容を同時に実施しましたので、各階で歓声があがりました。なかでも、職員有志によるお神輿は、大盛況で各階患者さんの歓声が響いておりました。



大泉学園複合施設 ねりま健育会病院／ライフサポートねりま



今年は射的、輪投げのアトラクションの他、作りたての綿あめとノンアルコール飲料の提供を行いました。ゾーン・時間分けをした上で、職員と共に全ての患者さんに楽しんでいただきました。射的、輪投げでは金賞に盛大な拍手でお祝いし、景品を受け取った患者さんからは「やった！やった！」と笑顔がこぼれていました。綿あめを見た患者さんは「何十年ぶりだろ？」「大きいのがいいな」と童心に返っているかのようでした。あいにくの天気で室内での提供でしたが、笑い声が響く一時となりました。

アトラクションの順番を待つ間、病棟では職員有志の『ねりけんBAND』による演奏が行われました。サクソの美しい主旋律にギター、ベース、キーボード、カホンの響きが加わり、多くの患者さんが心動かされていました。往年の名曲に加え、盆踊りの曲や童謡を聴いて、笑顔になり、歌い、中には踊り出したり、涙する方もいらっしゃいました。「私、最前列で聴けたの。嬉しかった。」と感動の声も多く、バンドと患者さんが一体となって病棟を楽しい雰囲気とお祭りムードで包み込みました。

お昼のお祝い御膳は、松茸ご飯、天ぷらの盛り合わせ、うなぎ入り茶碗蒸し、紅白なます、秋のフルーツ。季節の香りが豪華な食卓を彩りました。

お昼のお祝い御膳は、松茸ご飯、天ぷらの盛り合わせ、うなぎ入り茶碗蒸し、紅白なます、秋のフルーツ。季節の香りが豪華な食卓を彩りました。

午後は米寿5名、卒寿1名 計6名の方にご長寿の表彰と記念品の贈答を行いました。表彰状と記念品を受け取り、全員が院長との記念写真を撮影しました。表彰の際には自分から立ち上がり、受けようとする姿に職員が驚く場面もありました。「こういうの初めて。嬉しいわ。」と喜ぶ声と浮かぶ笑顔に一同温かい拍手でお祝いし、患者さん、職員共に思い出に残る敬老会となりました。

ライフケアガーデン熱川



新型コロナウイルス感染症対策のため、今年も本館と別館それぞれの開催となりました。ご家族の招待と外部ゲストの参加を見送る代わりに、職員の催し物を中心とした会としました。

昼食会のメニューは松茸ご飯と金目鯛の煮付け、伊勢海老の味噌汁といった特製弁当を用意。食養課が腕を振った山の幸、海の幸に皆さま舌鼓を打っていました。

昼食後は傘寿3名、米寿4名、卒寿2名、白寿3名、百寿1名の計13名を対象に長寿の表彰と記念品贈呈を行いました。

職員の催し物ではフラダンスと居合の演武を披露。フラダンスでは陽気な音楽に誘われたご入居者たちが飛び入りで参加し、一緒にステージで踊りました。居合の演武では日本刀の迫力に息をのみ、演武後にはご入居者と時代劇さながらの手に汗握る剣劇を演じました。

ご家族や外部ゲストを招くことが出来ない中での開催ですが、ご入居者と職員が一体となり温かく楽しい時間を過ごす機会となりました。今年もご入居者の幸せそうな笑顔を見ることが出来て職員も幸せな気持ちになるとともに、来年の敬老会も楽しんで頂けるよう誓いを新たにしました。



ライフケアガーデン湘南



今年のテーマは『つむぐ～16年ありがとう～』

繭の糸を何本も何本もより合わせ、強い絹糸につむぐようにひとつひとつの小さな出来事の積み重ねが、一年の出来事となり今年16年というホームの歴史につむがれました。入居者・ご家族・職員、そして様々な関りを持ってくださった皆様と丁寧につむがれた16年に感謝し、これからも末永く続いていきます様に！と願いを込め開催しました。

コロナ禍で第7波のため感染症対策から各フロア単位で規模を縮小した形をとり行い、ご家族はオンラインで参加いただきました。式典には外部の演奏者をお呼びできませんでした。その分職員の余興「カップス」～手のひらを太陽に～に心を込めました。

式典では節目を迎えられた、傘寿（80才）3名、米寿（88才）4

名、卒寿（90才）2名、百寿（100才）1名に表彰状と記念品「刺繍ネーム入りミニバスタオル」をプレゼントしました。

昼食は厨房職員が愛情持って調理してくれた自信作のお祝い膳。ご入居者から、「あら！紅葉の下に松茸よ！」「白和えの中にはリンゴと栗がいるね。」などお箸がすすむごとに秋を見つけられ、皆様ご満足いただけたかと思えます。

来年こそはコロナ禍が収束し盛大な祝賀会が催せるように職員一同誓いを新たにいたしました。



今年度もコロナ禍により外出や面会が制限され、我慢の生活が続いているご利用者さんに対して、敬愛を込めて、手作り感のあふれた楽しさと、心温まる時間を提供したいという想いを込めて、今年のコンセプトは「つながり」としました。

9月18日は、入所のご利用者さんを対象に開催しました。施設長の開会の挨拶に始まり、①長寿者披露。(百三賀(卒寿)：1名 百寿：2名) 記念品贈呈 ②こども園からのお祝いメッセージ ③ご家族からのお祝いメッセージ ④ご利用者さん飛び入り太鼓披露⑤職員による余興(竜の舞、マジック披露、祝いの踊り) ⑤事務長閉会挨拶という一日となりました。

ご家族からのメッセージでは涙ぐまれる方もおり、心温まる時間を過ごしていただきました。また、飛び入りとしてご利用者さん1名より地域の祭囃子の音楽と共に太鼓を披露いただきました。職員余興では拍手や笑いもありご利用者さん・職員共に楽しい時間を過ごすことができました。

式典終了後は、参加者全員で写真撮影を行いました。

9月19日は、通所リハビリテーションのご利用者さんを対象に開催しました。施設長の開会の挨拶に始まり、①長寿者披露。記念品贈呈 ②職員による余興(竜の舞、マジック披露、祝いの踊り)+ご利用者さん1名の歌をバックに太鼓披露(祭り) ③事務長閉会挨拶という1日になりました。

来設時、職員手作りによるコサージュをプレゼントし記念撮影を行いました。職員余興では手拍子や笑いもありご利用者さん・職員共に楽しいひと時を過ごしていただきました。式典終了後は、参加者全員で写真撮影と記念品(箸・スプーンのセット)をプレゼントし喜んでいただきました。



ケアポート 板橋



今年も新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、各部署、各フロアにて開催しました。

昼食は秋の味覚をふんだんに味わって頂く為に、「鮭と茸の炊き込みご飯」「天ぷら」「煮しめ」「卵豆腐」「巨峰」等を提供し、「どれもおいしい」と大変喜ばれていました。

午後の式典では、まず施設長と書道の師範代である栄養課職員で、2.5m程の半紙に巨大書道パフォーマンスを披露しました。間近で鑑賞された為、皆様迫力を感じ、大変楽しんでおられました。その後、喜寿1名、傘寿3名、米寿3名、卒寿8名、白寿3名、百歳以上の長寿は6名総勢24名の節目の方を表彰させて頂きました。表彰させて頂くと「こんな事してもらっちゃって、うれしいです」と涙を流される方もいらっしゃいました。その他には、お一人ずつ敬老会の写真映えができる様、記念撮影もされ、満足されたご様子でした。

ご家族に対しては、敬老祝賀会の様子をZoomにて配信しております。

規模は例年に比べ、縮小する形となってしまいましたが、笑顔や生き生きとされたご様子が見受けられ、例年に負けないくらい盛り上がったと感じております。

グループホーム かもめの家



敬老会当日は、10:35より開会式（ご家族はZOOMによるリモート参加）、施設長によるあいさつ、所長による賞状授与、記念品贈呈を行いました。

文化的な催し物として、以前入居されておりましたご利用者さんのご友人に「日本舞踊」を披露して頂き、「炭坑節」、「東京音頭」ではご利用者さんや職員も一緒にさせて頂き、とても楽しんで頂きました。

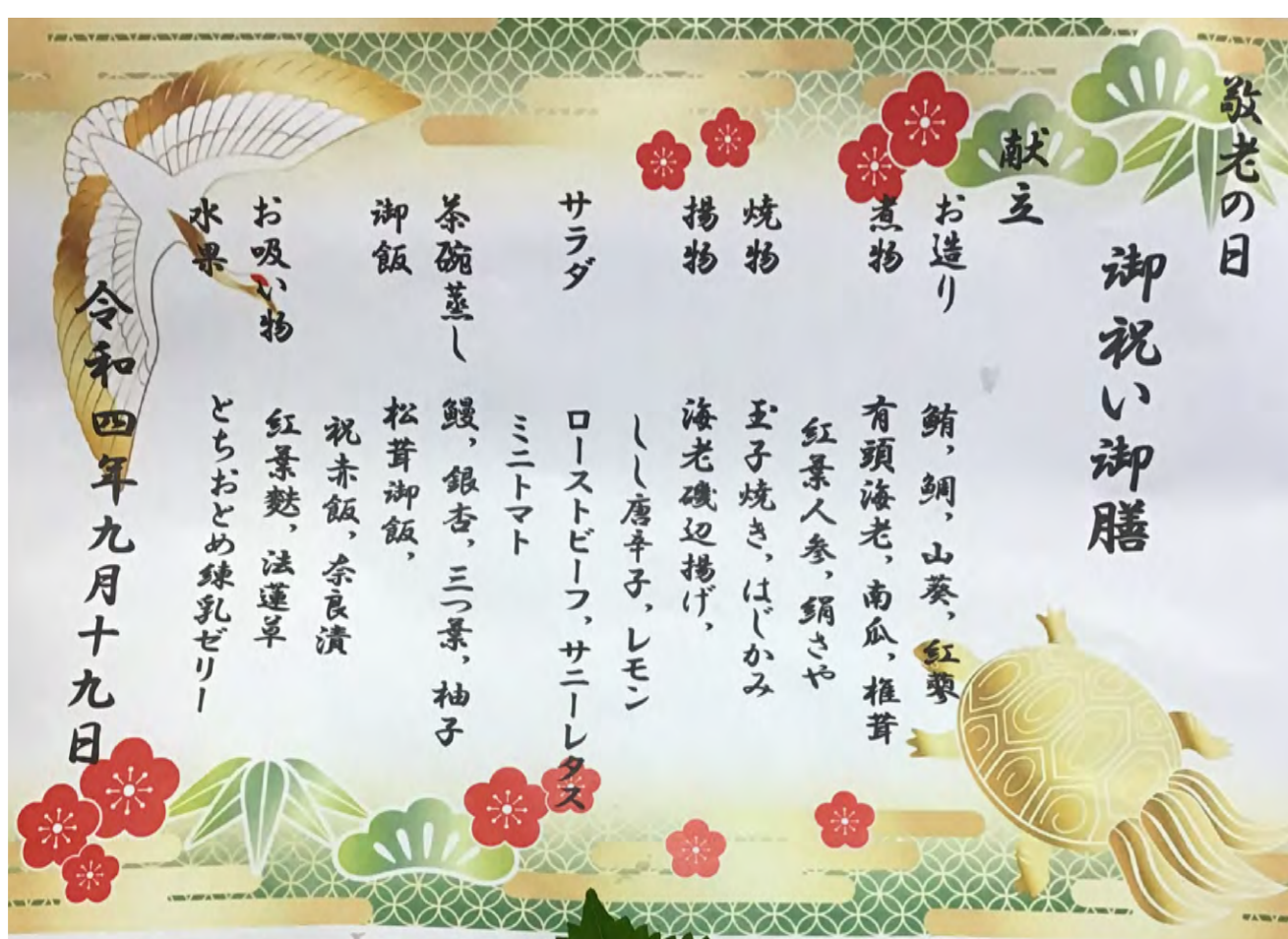
最後に所長より閉会の挨拶を行い閉会となっております。

お昼ご飯は浅草「今半」のすき焼き弁当に舌つづみを打ち、おやつまでは贈呈した「音楽DVD」鑑賞にて楽しんで頂き、おやつは「とらやの羊羹」を召し上げて頂きました。

リモートで参加して頂いたご家族からは「とても良い敬老祝賀会でした。」と、お言葉頂戴しております。



ケアセンター けやき



本年はサービス合同での敬老会を計画しておりましたが、今夏の新型コロナウイルス感染症の蔓延を鑑み、ご家族やボランティアの方々の招待を見送らせて頂いたなかでの開催となりました。けやきでは「デイサービス」と「入居サービス（特定施設、グループホーム）」に分け、最高齢101歳から白寿まで節目を迎えられた15名の方を表彰させて頂きました。また、101歳の方には岸田首相と小池都知事より表彰状とお祝いの品もあり、お届けさせて頂きました。また、ご家族よりご利用者さんへのお祝いメッセージをいただき、アルバムにしてお渡ししました。敬老会の当日の様子は、ご家族へライブ配信。その後、希望される方には個別にWeb面会をし、お祝いメッセージを直接読んでいただきました。

昼食は、厨房職員が腕を振った「御祝い御膳」。豪華な御膳は見た目も味も素晴らしく、赤飯に松茸ご飯、天ぷらとお刺身が入っており好評でした。

最後にデイサービスではビンゴ大会、入居では職員による花笠踊りを催させて頂き、ご利用者さんの笑顔をたくさん見ることが出来ました。

改めてご利用者さんのご長寿を心からお祝いし、末永い健康を願い、これまでのご功労とご功績に感謝申し上げます。



ひまわりでは、今年も新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、デイサービスと看護小規模多機能事業所それぞれで開催。

デイサービスでは9月13日～17日までを敬老週間として、各日の昼食に「敬老会御膳」の提供を行い、17日に盛大に「敬老感謝祭」を開催。最高齢99歳から古希まで節目を迎えられた7名の方を表彰し、記念品を贈呈。3密防止の為、外部のボランティアは招かず職員からの催し物を披露いたしました。日頃、接しているデイサービスの職員からのにぎやかな余興は、お祭りの曲に合わせて踊り、職員全員でお祝いのメッセージを送りました。この日の為に踊りを練習して披露する職員の姿に、ご利用者さんも大いに盛り上がり終えることができました。

ナースインホームひまわりでは、感染対策として移動制限を設けて3年ぶりにボランティアの方々をお招きし9月13日に敬老会を開催。演芸師の方と地元のたんぼぼ会の2組のボランティアの方々からお祝いの踊りを頂戴しました。ご利用者さんには記念品を贈呈し、中には感動され涙を流される方もいらっしゃいました。昼食は「敬老会御膳」の豪華なお食事と希望者にはノンアルコールビールで楽しんでいただき、記念年を大いに喜んでいただけ良い笑顔を引き出すことができました。

介護老人保健施設 しおん



敬老会当日は、10時から長寿表彰が開始され、まずは、1階ユニットから。石川ディレクターが10ユニット5カ所を駆け回り手渡されました。長寿表彰対象者には、賞状とお祝いの品が贈呈され、また、対象ではないご利用者さんへもささやかながらプレゼントが贈られました。特に表彰対象のご利用者さんにご満悦でした。本年の長寿表彰対象者は、入所部門では18名、デイケア部門では28名（うち、9/19利用のご利用者さんは10名）、合計46名でした。最高齢は、入所部門では104歳、デイケアでは101歳でした。（100歳以上は合計4名）

その後、日本舞踊の個人のボランティアさんにお越しいただき披露してもらいました。コロナ禍でなかなか招待することが難しかったボランティアさんでしたが、今回久々に来設いただき、ご利用者さんは生の日本舞踊を見て感動されている様子でした。別のボランティアさんには、大漁唄い込み、花笠音頭など他多数を披露いただきました、ご利用者さんは終始夢中になられて手拍子。司会者（ボランティアさん）の話しに自ら参加される方もいらっしゃって、大変充実した時間を過ごされていた様子でした。また、リハビリ職員有志によるよさこいソーラン節も行われました。しおん内での通称アイドルグループとしてお馴染みとなったソーラン節隊は「純烈」ならぬ「しおんれつ」というグループ名として披露しました。ユニットとデイケアでの複数回による演舞でも一生懸命な踊りにアンコールの声が出ていたほどでした。

昼食には、みなさんお待ちかね敬老の日特製御膳が提供されました。普段とは異なる豪華なメニューと彩りで、赤飯・鯛めし、刺身、てんぷらなどがあり、「うまい、おいしいね、鶴の飾りがきれいだね」等の言葉が聞かれ、完食される割合も高かったです。

喬成会

オアシス21



今年も新型コロナウイルス感染症対策のためボランティアの参加は見送り、100%職員による演し物を企画し、踊りもご利用者さんが一緒に出来るように工夫しました。ご利用者さんの全員の笑顔写真を廊下に掲示し、皆で投票を行ってNo.1を決める笑顔グランプリも開催しました。皆さんNo.1の笑顔でしたが、いつもそんなに笑わないご利用者さんの会心の笑みが皆から支持され表彰されました。笑顔溢れる感謝祭となりました。

皆さんお楽しみの昼食は栄養科が腕によりをかけた「秋の緑州膳（りよくしゅうぜん）心葉（こころば）」です。栗入り赤飯・山菜おこわ・海老フライ・筑前煮・鮭の味噌漬け・赤しそのしずく等、15種のおかず汁とフルーツ・デザートと超豪華膳には皆さん驚かれ、そして美味しく召し上がられました。赤しそのしずくは種から育てた赤紫蘇をご利用者さんと収穫し、ジュースに加工した後にゼリーになりました。赤紫蘇ジュースや梅漬けは北海道では地域的に習慣になっており皆さんにもとても馴染みがあり、「懐かしくて涙が出た」と昔の記憶を呼び覚ましていました。



花びりか



敬老会が月曜の祝日という事でデイサービスに出かけている入居者さんも多かったですが、花びりか厨房職員が腕によりをかけて作った特製弁当は大好評で、皆さんお食事を楽しめました。

昼食後は恒例の運営報告会を開催し、その後米寿の方のお祝い。催しとして職員による手品やマシュマロキャッチ、よさこいダンス、ギター演奏を披露しました。お祝いの場でしたが、地域包括の職員による詐欺などへの注意喚起もしっかりと実施しました。

介護老人保健施設ライフサポートひなた



今年も新型コロナウイルス感染症予防の為、各フロアにて敬老会を開催しました。

事務長の開会の挨拶に始まり、祝い年のご利用者さんへ感謝状授与と写真撮影、祝い年のご利用者さん1名ずつへのインタビューを行いました。写真撮影の際にはご利用者さんは満面の笑みで写真に写られていました。催し物として、職員による太鼓の演奏を行いました。ご利用者さんも太鼓に合わせて手拍子を行っていただき、なかには、実際のバチを持って太鼓を叩くご利用者さんもいらっしゃいました。また、介護フラダンスをビデオで流して、アロハシャツを着た職員と一緒にご利用者さんにも踊っていただきました。歌を口ずさみながら踊るご利用者さんもあり、フラダンスの雰囲気味わっていただけたと思います。さらに、職員によるカラオケを披露しました。アンコールも聞かれ感動されているご利用者さんが多くいらっしゃいました。

コロナ禍でご家族を呼ぶことが叶わなかったため、事前にご家族に手紙を依頼し、当日ご利用者さん宛への手紙をお渡ししました。手紙を笑顔で受け取っていただいたご利用者さんが数多くいらっしゃいました。

昼食は、行事食、おやつの際には紅白饅頭を提供しました。普段より豪華なメニューにご利用者さんは大変満足されている様子でした。

